

令和6年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・研究授業を通して、資料の見せ方や話し合い活動のさせ方について理解を深めることができた。
- ・校庭の梅の実を使ったジュースづくりを行い、児童の関心を高めることができた。
- ・幼稚園・保育園の児童を招いて活動をすることで、自分たちの成長を実感したり説明の仕方を考えたりすることができた。
- ・地域の農園の協力を得て虫探しを行い、バッタやコオロギなどの昆虫との触れ合いを楽しむことができた。
- ・町探検では、全員で久が原図書館に行き、少人数で興味をもったお店や施設に行った。実際に見たり話を聞いたりすることで、町や町の人を知り、良さに気付くことができた。
- ・2年生が中心となる「アサガオの植え方」「学校探検」「遊びランド」に加え、1年生が中心となる「秋祭り」を行い、1・2年生が交流する機会を多くもつことができた。

(2) 課題

- ・ビオトープの活用や、地域との連携など自然と触れ合う機会を増やしたい。
- ・学年の実態や成長過程に応じた話し合い活動の仕方・言葉掛けの仕方を考える。
- ・校内の草花・植物の地図があると活動の活性化が見込める。
- ・気候の関係で活動が制限されたり、計画を見直したりすることになった。気候を考慮して年間計画を立て、関連機関への協力要請を早めに行うようにしたい。
- ・学年園の活用により、秋野菜を育てる経験をさらに充実させたい。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・学校にある果実を利用して、遊びなどを工夫して取り組むようにする。また、どの季節にどのような果実があるか観察することで、それぞれの季節の自然の特徴や違いを見つけるようにする。 ・少人数のグループで地域のお店や公共施設を見学したり話を聞いたりする活動をすることで、自分たちとの関わりや町の良さに気付くことができるようにする。	・自然の物を利用して遊んだり、触れ合ったりすることで、その面白さや不思議さに気付くようにする。 ・他学年と交流する機会を作り、相手に応じた交流の仕方を工夫できるようにする。 ・生活科の学習を通して気付いたことや分かったことをまとめ、相手に応じた伝え方を工夫して伝えることができるようにする。	・生活科の学習の中で、活動の幅を広げ、他学年や幼稚園・保育園とすすんで交流しようとする気持ちを育てられるようにする。 ・野菜の収穫をしたり、虫を飼育したりする活動を通して、動植物に触れ合う機会を多くし、自然や生き物への親しみをもてるようにする。